

12月定例会議議事録

【12月23日（水）1600～2200：ウッドオフィス5F会議室】

1 参加者（9名）

吉田明生、名取貞、岡田満、柏木白光、根本大輔、東谷淳、
ZOOM：小川知彦、井上幸珠、杉山理

2 議事（要旨）

(1) 退任（退会）

岡田満、井上幸珠、小川知彦、根本大輔、根本健児

(2) 「会議等参加費未払い金」の支払いについて

- ・10月会議内容（再掲）の承認

(3) 自由討議

- ・北海道 FM 放送が年間1万台の電池式ラジオを寄贈・配布する事業を展開している。このような事業を表彰できないか。
- ・表彰に相応しい場を考えて、実現したい。
- ・「防災スポーツ」がスポーツ庁長官賞を受賞された。防災グッズ展などのイベントで連携を図りたい。
- ・サンポウのロックハート城にあるレストラン2階全フロアに「心の癒やし研究所」展示ルームを開設予定。災害防止研究所との連携を考慮したい。
- ・“こころの癒やし”との連携は、災害防止研究所との接点について、よく相談して進める必要がある。
- ・日本財団関連
 - ・企画案として「龍神PJ」というテーマは面白いとは思いますが、企画内容は要検討で、具体化が必要。
 - ・吉田のプロフェッショナルの領域である危機管理の教育（対象の年齢層によって資料レベルは変えないといけないとは考える）や、その実践能力を具現化する企画こそが、まさに専門性、教育・学習、実践性、展開性、継続性などの点で、安定性をもって、こちらから自信をもって先方に提供出来るテーマだと考える。

- 本テーマであれば、災害防止研究所の目的や特異性にも叶い、ほかに依存することもなく、自信を持って提案することができる。
- 本件は、これまでウッドオフィスが日本財団と仕事をしてきた経験を通じ、災害防止研究所にとって有益だと考えて提案している。具体化のための調整段階の話しであり、1月中に担当者と調整しつつ、具体化していく。先方のニーズもまだ完全に固まっていないので、それをすりあわせるためのキャッチボールをしている。
- 大きな事業は、より慎重に検討し、方向性を明確にして進めることが必要。
- 災害防止研究所と株式会社防災グッズ工房との関係性については、部外から疑念を持たれぬよう細心の注意を払うことが必要である。外部の専門家とも十分に相談しながら、両法人として、人事面も含めての成立点を考えて頂く事が大切である。

以上